

# 平成20年度 施政方針と 当初予算

## 施政方針演説

■地方行政を取り巻く情勢は、一段と厳しさを増しております。国が進めた三位一体改革では、3兆円の税源移譲は実現した反面、地方交付税の削減等により、もともと税源の乏しい地方都市とりわけ財政調整基金など、基金残高の乏しい本市にとつては大きな打撃となり、更なる財政逼迫の要因となりました。

■したがって、市政運営に当たっては、財政改革の推進が喫緊かつ重要な課題であることから、今日まで徹底した行財政改革に取り組んでまいりました。平成19年度におきましては、職員数の八名削減、特別職を含めた職員給与の削減の継続とともに、第8回「風の芸術展」に

つきましては従来の公募展から過去の受賞作家の作品展へと変更するとともに、市民の協力、寄付等によって運営するなど、徹底した事務事業の見直しと経費節減に努める一方、旧南薩線跡地等の売却の推進や、新たに市の広報紙とホームページに有料広告掲載を設けるなど、歳入確保にも積極的に取り組んでまいりました。

■しかしながら、本市財政状況は依然として厳しく、一旦大きな災害でも起これば直ちに赤字決算となり、財政再生団体に陥りかねない危機状況に瀕していることには変わりはありません。このような状況から一日も早く脱却するためには、「行財政改革集中プラン」の前倒しや見直しを、職員一丸となり、相応な覚悟を持って実施していくとともに、将来を見据えた本市

のまちづくりについて、これまで以上に市民と行政が共に知恵を出し合い、共に手を取り相協力して市政を運営していくことが非常に重要であると考えます。

■幸い、食育講演会や食の祭典の開催といった「食と健康・産業振興」の分野、また、犬牟田墓地の枯木の除去や河川環境浄化プロジェクトの実施、瀬戸桜公園の造成と桜やアジサイの植樹といった「環境整備・保全」の分野など、いろんな分野で市民協働の動きが活発になりつつあります。このようなことから、新年度の市政運営に当たりましては、昨年12月に策定した「市民協働によるまちづくりを進めるための指針」に基づき、更に幅広い分野で市民の皆さん方のアイデアと行動力をお借りしながら、明るく、元氣なまちづくりに努めてまいりたいと考えて

おります。

■なお、平成21年は、市制施行60周年の記念すべき年に当たりますが、その記念式典等につきましても、市民協働の理念の下、市民総ぐるみで運営できるように、その準備作業を着実に進めてまいります。

■ところで、本市のような地方都市にとって、地方中核都市とのアクセス道路の整備は、地域経済の浮揚、交流人口の増加など地域活性化に不可欠であります。地域高規格道路「南薩縦貫道」につきましては、旧知覧町から枕崎市間12キロメートルが未だ「計画路線」のままですの

で、近隣市と連携し、「調査区間」への格上げと全区間の早期完成に向け、関係機関への要請を更に強化いたしました。

■さて、新年度の予算編成に当たっては、税収等の落込みが見込まれる中、更に徹底した事務事業の見直しを行ってなお多額の財源不足が見込まれたことから、職員の給与カットについて一部内容を見直した上で更に継続することとするなど、職員及び市民の皆様にも痛みを強い予算編成とならざるを得ませんでした。ただ、極めて厳しい財政状況ではありましたが、子育て支援策として妊婦健診の公費負担を2回から5回へと増やし、また、教育環境の改善を図るため、新年度から5年間で小・中学校の全教室に扇風機を設置するための経費を予算措置するなど、創意と工夫を凝らし、多様化する市民ニーズに可能な限りこたえるべく努力いたしました。

■そこで、新年度の施策の主なものについて、第五次枕崎市総合振興計画の基本構想の六つの柱に沿って、御説明いたします。

## 安全で潤いのある きれいなまちづくり

■水道事業については、より安全で良質な生活用水等を供給できるように、石綿セメント管の更新事業を引き続き実施するとともに、漏水多発管路の改良を進め、有収率の向上に努めます。

また、今後の事業経営の指針となる水道ビジョンの策定についても検討してまいります。

■生活環境の整備・改善と公共用水域の水質保全の観点から、公共下水道事業について区域拡大のための事業変更認可申請業務委託を実施するとともに、公共下水道区域外においては、合併処理浄化槽の設置を更に推進します。

また新たな取組として、EM菌を使った河川浄化に市民協働で取り組みます。

■ごみ処理対策については、ごみ分別の更なる徹底に努め、ごみ減量化及び再資源化、再利用を推進します。

■花渡川水系の改修事業については、床上浸水対策特別緊急事業は新年度をもって完了し、新たに総合流域防災事業として金山川との合流点付近が着手される予定です。

■また、県単急傾斜地崩壊対策事業で新たに市営木場住宅付近の整備を実施します。

■市営住宅については、入居者の生活の安全及び平穏を確保する観点から、警察と連携し暴力団員の入居防止対策を講じるほか、住宅用火災警報器を年次的に設置し、快適な居住環境の整備に努めます。

■複雑化、多発化する消費者トラブルから市民を守るため消費生活出前講座の実施や広報紙を活用して意識の啓発に努めます。

■地域の安全安心を確保するため、コミュニティ助成事業を活用した防犯灯及び防災資機材の整備・充実に努めます。

■自主防災組織については、平成19年度末の組織率が七割に達しておりますが、災害に強いまちづくりの一環として、今後とも更なる自主防災組織の育成・支援を図るとともに、自主防災に係る連絡会組織の結成にも取り組みます。

また、平成19年度に策定した災害時要援護者避難支援プランに基づき、モデル地区を選定し、要援護者登録帳の整備と個別支援プランを策定します。

市総合防災訓練は、新年度も土砂災害防災訓練として梅雨期の災害シーズン前に関係機関及び地域と連携して実施します。

■交通事故防止と飲酒運転の撲

- 減を図るため、交通安全運動と連動した形で市民総ぐるみ交通安全立哨活動を強力に展開します。
- ▼主な事業
- ▽下水道事業繰出金 332,516千円
  - ▽循環型社会形成交付金事業補助 29,028千円
  - ▽市民協働で行う河川環境浄化プロジェクト 90千円
  - ▽南薩地区衛生管理組合負担金 515,974千円
  - ▽ごみ収集運搬委託 45,700千円
  - ▽県単砂防事業負担金(火之神川) 2,000千円
  - ▽県単急傾斜地崩壊対策事業(宮田町地区・木場③地区) 18,500千円
  - ▽市営住宅火災警報器設置 1,554千円
  - ▽コミュニティ助成事業補助(防犯灯設置及び自主防災組織施設整備補助) 3,700千円
  - ▽南薩地区消防組合負担金 310,021千円
  - ▽消火栓設置費負担金 4,903千円
  - ▽防火水栓設置事業(中原地区) 3,670千円
  - ▽枕崎地区防犯協会費 1,860千円

## 快適で便利な拠点性の高いまちづくり

■道路整備については、板敷大隣線及び大堀通線の改良工事等を引き続き実施します。なお、虚空蔵通線については新年度で完了し、新たに県道打木谷沢津線の改良工事が着手される予定です。

■生活路線バスについては、利用状況等を勘案しながら、事業者や県等と連携して市民の交通手段の確保に取り組みます。

■JR指宿枕崎線については、引き続き沿線市やJRとの連携を取りながら、利用喚起に努めるとともに、沿線の環境整備や市民の使いやすいダイヤ設定等の要請をしていきます。

■枕崎空港については、産学官一体となった施設の有効活用など活性化に向けた取組を今後とも様々な方向から検討します。

■情報化の推進については、ホームページを活用した行政情報の提供や電子申請システムの利用促進のほか、平成23年の地上デジタル放送への全面移行に伴う難視聴地区への受信対策に取り組むなど、市民の利便性の向上に努めます。

- ▼主な事業
- ▽道路維持費 123,716千円
  - ▽舗装新設(一般)事業 2,000千円
  - ▽舗装新設(辺地)事業(茅野駒水線ほか4線) 61,306千円
  - ▽地区道路舗装等補助 1,500千円
  - ▽道路改良事業(宇都山口線) 5,202千円
  - ▽県管道路整備事業負担金(打木谷沢津線) 1,500千円
  - ▽交通安全施設整備事業 6,500千円
  - ▽地方道路整備臨時交付事業(天掘通線) 100,042千円
  - ▽県管街路整備事業負担金(虚空蔵通線) 12,000千円
  - ▽空港管理費 17,414千円
  - ▽電算費 40,033千円
- ▼人との交流、活力みなぎるまちづくり
- 昨年の枕崎港の水揚げ量は、12年連続で10万トンを超え、海外におけるカツオ缶詰の需要増に伴う冷凍カツオの高騰により、水揚げ高では史上2位となる157億円を記録しました。